

曖昧な日本語から学んだこと

皆さん、日本語の曖昧な表現にとまどったことがありますか。私は日本で暮らす中で、その曖昧さに何度か驚かされてきました。

それは、まだ日本語学校で学んでいた春のことです。アルバイトへ向かう途中、ふと見上げると、桜が咲いていました。「わあ、きれい！今年は私がミャンマー料理を作って、ママを花見に誘おう！」と、胸がわくわくしました。

ママは、アルバイト先でお世話になっていたおばあちゃんです。前の春、初めて花見に連れて行ってくれました。おはぎやおにぎりをたくさん用意してくれて、一緒に桜を眺めながら、楽しくおしゃべりをしました。

アルバイト先に着くと私はすぐにママに声をかけました。「桜が咲き始めましたよ。今年も花見に行きましょう！」

するとママは笑顔で言いました。「行けたら行くわ」

私は嬉しくなりました。ところが、一週間後にもう一度誘っても、「まあ、行けたら行くわ」と。結局、その年は一緒に花見に行くことはありませんでした。桜はきれいに咲いて、そして散っていきました。私は何とも言えない寂しい気持ちになりました。どうして日本人は、行かないなら行かないと言わないんだろう。

曖昧な日本語表現に戸惑った経験は他にもあります。ホールスタッフとして働いていた時のこと。ある日、お寿司を注文したお客様に聞きました。

「わさびを入れますか？」

お客様は笑顔で、「大丈夫です」と答えたので、「わさび入りでお願いします！」と厨房に伝えました。ところが、お寿司を運んでいくと、お客様が驚いて言いまし

た。

「えっ、わさび入ってるんですか？」

私はさらに驚きました。

「え？ 大丈夫だとおっしゃいましたよね？」

後から先生に聞いて初めて知りました。

日本語の「大丈夫です」には、「お願いします」という意味のときもあれば、「結構です」という意味のときもあるのです。日本人の皆さんには本当に大丈夫なのでしょう。私にはまだよくわかりません。

その後、大学に進学してからも日本語についての新しい発見は続きます。大学では同級生のマオちゃんとよく話します。彼女との会話はいつも楽しく日本語を学ぶ大切な時間です。例えば、私が「昨日のサークルはとても嬉しかったよ。」と言うと、マオちゃんは「へえー！楽しかったんだね！で、何したの？」と、「嬉しかった」を「楽しかった」にさりげなく直してくれます。また別の日、私が「私、その店を知る」と言ったら、「あ、そのお店知ってるんだ！」と笑顔で話を続けてくれました。マオちゃんは、いつも私の間違った日本語を直そうとせず、自然な日本語で返してくれていたのです。

しかし、英語の授業ではそうではありませんでした。私が文法を間違えると、英会話の先生はいつも「ノー、ノー」と言って直します。もちろん先生は正しいのです。でも、みんなの前で間違いを指摘されると、少し恥ずかしく感じました。

そのとき私は気づきました。日本人は相手を傷つけないように、できるだけ柔らかく伝えようとする。はっきり言わず、遠回しに表現することもある。その曖昧さ

の中には、相手への思いやりが隠れているのです。

ところで、最近、久しぶりにママと電話で話す機会がありました。そのとき初めて知りました。私が花見に誘っていた頃、ママはご家族の看病でとても忙しくて、花見に行く気持ちの余裕がなかったそうです。あの時は「はっきり言ってくれたらいいのに」と思いましたが、今は少しわかるような気がします。きっとママは、私に心配させたくなかったのでしょう。

いつかママが落ち着いたら、今度こそ私がミャンマー料理を作って、一緒に桜を見に行きたいです。これからも、間違いながら、戸惑いながら、そして笑いながら日本語を学んでいきたいと思います。ご清聴ありがとうございます！